

(社)日本原子力学会
第37回倫理委員会議事要旨

日 時 H20.3.26(水)14:40~17:20
場 所 大阪大学工学部S1-311室
出席者 大場、班目、小川、小沢、鐘ヶ江、作田、杉本、谷、辻、三好、矢野
(11名)

配布資料

- 資料 37 - 1 第 36 回倫理委員会議事要旨(案)
- 資料 37 - 2 関西電力副社長森本氏と倫理委員会委員長との面談録
- 資料 37 - 3 (欠番)
- 資料 37 - 4 倫理事例(4事例)
- 資料 37 - 5 第 10 回「原子力に関する倫理研究会」開催案(ドラフト)
- 参考資料 37 - 1 「技術者の倫理ケースブック」購入リスト(修正)
- 参考資料 37 - 2 応用物理学会にて発覚した倫理的不適合事例(データ捏造論文)

議事

1. 資料 37 - 1 により前回議事要旨を確認した。関連して、倫理規程制改訂経緯まではホームページに掲載済みであるが、その他の掲載はこれからとなることの説明があった。研究会や企画セッションの担当理事は新理事体制決定後に主担当委員と連絡をとって決めることを確認した。
2. 大場副委員長より資料 37 - 2 を用いて関西電力副社長森本氏と倫理委員会委員長との面談の様子を紹介があった。
3. 作田委員より資料 37 - 4 を用いて新しい事例集に収める事例作りの進捗状況の説明があった。一見、原子力とは無関係な事例ばかりであると、原子力関係者は身近な問題と感じないこと、非原子力関係者は原子力で生じている問題はこれとは異質なものがあるのではないかとの疑念を持つこと等の指摘があった。事例の発生現場を原子力施設とする、倫理問題は原子力分野でも一般産業のそれと本質的な差はないことを前書き等に記載するなどして対応することとなった。研究倫理的な事例も含めてほしいとの希望や、好事例の掲載も効果的との意見、裁判記録が参考となる等の意見もあった。事例が揃い次第、作田委員から全委員にそれをメールで配布し、さらに意見交換をすることとした。なお市販するとなると、実態は自費出版となって費用負担がかえって大きくなることから、前回と同じく学会での販売の形で考えていくこととした。
4. 杉本委員より資料 37 - 5 を用いて第 10 回「原子力に関する倫理研究会」開催案の紹介があった。参加者を公募しない非公開ではあるが、速記録は作成し発言者の承諾を得た上で公開することを確認した。場所は JAEA か東大とすることとした。原子力学会の倫理

規程の紹介の後、いろいろな分野のかたの話を聞くこととし、保険会社や原子力メーカーのコンプライアンス関係者、米国の Society for business ethics の日本人会員、他学会の倫理規程作成の中心人物、倫理委員会活動から距離を置いて見守っている原子力学会理事会メンバーなどが候補となった。開催日は7月11日（金）とすることとした。

- 5 . 2008 年秋の大会での倫理委員会企画セッションについて意見交換を行った。発電設備の総点検で明らかになった事例への各電力の再発防止策の中間報告は 5 月ごろに出揃うので、それをいくつか紹介してもらった上で、倫理委員会の評価を鳥飼委員中心に発表するという内容で考えることとした。
- 6 . 矢野委員より技術倫理協議会から運営分担金の負担を求められていることの報告があった。検討の結果、負担はやむをえないとの結論となり、理事会で検討いただくこととなった。
- 7 . 大場副委員長より参考資料 37 - 2 を用いて大学での研究倫理の問題事例の紹介があり、意見交換が行われた。
- 8 . 次回は 5 月 20 日（火）の午後に開催することとした。